



令和3年 10月 27日
佛教大学附属幼稚園

「仏教保育 11月のねらい」

精進努力

「根をはる努力」

園長 佐藤和順

日中は暖かく穏やで、空は澄み渡り秋を感じる好季節となりました。園外保育を通して、どんぐりを拾ったり、紅葉を目にしたりと子どもたちはそれぞれの秋を楽しんでいます。

今月の保育の目標は「精進努力(しょうじんどりよく)最後までやりとげよう」です。精進とは精魂込めて物事に取り組むこと。つまり精進努力とは、心を込めて一生懸命努力することです。途中でくじけては、どんな小さなことも実りません。すべてを終わりまで粘り強くやりとげることを、子どものときから習慣づけることが大切だということです。

精進努力というと「壮大なビジョンを持たないといけないのか?」「自分には出来っこないな」と、思ってしまうがちです。しかし、精進努力とは案外私たちの身近で行われていることだとも思うのです。

子どもでいうと、苦手な野菜を少しずつでも食べられるようになった。毎日練習して竹馬が出来るようになった。ピカピカの泥だんごを作れるようになった。「え、泥だんご?」と思う方もいらっしゃるかと思いますが、これも立派な精進努力といえます。なぜなら、泥だんごをピカピカにするには根気と技術を必要とするからです。子どもにはあきらめずにチャレンジすることの大切さ、達成した時の喜びをしっかりと味わってほしいと願っています。そして、小さなことでも継続して頑張っている姿を大人がほめて認めていき、自己肯定感・あきらめない気持ち・意欲・友達と協力する姿勢などをしっかり育てていきたいと考えています。これらの力は、園で大切にしている非認知能力です。非認知能力は人格形成の根っこにあたる部分であり、幼児期にしっかりと伸ばすことの重要性が近年指摘されています。しっかりと根がはっていないと、その後には芽がでて、茎が育ち、枝や花や葉が十分に育つことができません。幼児期に精進努力することが、子どもの後伸びする力となるのです。

また、子どもに言うばかりではなく大人である私たちも最後までやり遂げる姿、継続して取り組む姿を見ることができたら素晴らしいなと思います。読書の秋、スポーツの秋、食欲の秋。秋はいろいろなことに取り組む好季節。自分なりの目標を掲げて日々精進努力したいものです。

